假名書法　全

チ 6
763

門 手6
號 763
巻

七字法

伊呂波を書に六字宛、句絶定むる也、七字にするは祝ひの縁也との

抑〻初心の手本七字

ハ漢字取寛也

正字 掃

一つ以

右文字以後〻小浄判あき

如くも皆正字なしかたまり

ぬ取り實流のこ多し

右依之悉曇(シツタン)五十字以下

なの中ゐへりて

語之終にあると共初にある也

なはあうこの形くへを

遍しかしひりは津し

かしひてハ江しおやまる

本之字ハ家可とりく

嘗ち画とへのか訓

ふくか画き沃あかへ

かうん

此いろはをハ

とひしるこいふれ しるのやまとことのはと ゆくりのや

真文字をくつして書出ス

あるハ大和をハ真文字

よりく書とかれたくは

英五

對 ツ一点 略

及 人へ

如是真文字のくつし成

よりく書し行しにも

いろはをハ草文字と

かゝく書る也　一

江（数は）数（つ）而（へ）

ゆはしてらは事也

京乃字之事

いろはの奥く京の一

字あるゝす書き訓

大楽院宮ゟ代々相承

しけ手れとゆく聖秀

いつれ見し来ぬハ相違也

川歌秘説

高胡親王いろはかり

さくに古歌二首拾し

更行しなり

あさかやま影さへみゆる山の

井あさくは人をおもふもの

井りふもの、のやま

なにハ津にさくやこの
はな冬こもり今をはるべと
さくやこのはな
あさかやまの詞もいろは

にかゝれりしなまハ浅く
ふく心にはしきなの心
と知するらんといふ口本
義なり

頭ゝ意味ゝ筆

是いふこれは頭の意味と合と云筆
書きうつして行く事也
若ら候者わかる事

起句發ト云句

秋乃野ふ なまめきたてく

る女郎ふ あなかしかまし

花も一とゝさ

毛の気はらにけるか

いくつらにわか男ふるか

なにあ輝し やまふ

我世誰常ト云句

あきらかとなふるはかりも

ねむりにも花とも新紙

さころ見るらめ

有為奥山今日越ト云句

わかれはまて花散ものの

けりつきは風のもとへ尓

多毛のやま

終もはたいつくここ
しかしこきめ人ゝふとハ
御はさりしと
淺茅原見ふ酔ト云る

峨くのの此筆のしら露
秋を凡く浦みくこゝむ
こしもしき思ふ
原ら字

ゆりよ半いとくはしや
風みぬつきまふかき
人しなき花そ
右二首の證しも歌の
こゝを證傳とせよ
五ゆ中清頌實之事
雞尾系柳
雞の尾のゆら〳〵するごとくなり
ちら〳〵する也
いみし風よりかるゝと申く

雛尾糸柳の二義を伝
授しくかくとよし此古
書にもあり三鳥時代
お定まりしと也 能書にも

一
青風ゆらめくはなりみしと
正念たく婦ふるる是老の
しあ北をのせもしき形を
りくろら本時き風かふ世

しらくうしに志るき婦
ゆきふる夜帯哉
あしひきの山鳥の尾のしたり
尾乃なかなかしよと

ちる里うも給ん
雉尾桑柳乃かるひとくも
花の風御乱魂の数あまた
用捨へしきて

祖師浮代々正念なき浮世は不

ふるとりに識め童好きゝ也

太宰流宮津風と字

おくにいきつゝつとみる

御宮様のしのゝやまふ

ありやしぬる隣

こゝやまりハあつ清なれ

御山たる紀まち紀のちる

多傳きつり金

御流風躰ニ絶えすゆかしく
うるハし　大家流家の口伝ハ
代々の流風いつも口伝ありて
一字も文字正念あるまじく習堂

の及ひかたき也別して是と
雖尾余柳とても結ぶ事也
能書字頭事
いろはにほへと

かやの風るふいかり
くれ諸文字のもしくふ
く假名の中にくさむる也
結構書し

はほちぬるわか
よれねなおめ免
花のしるしや文字法
といふく婦るる也　了意語

うかれるゝと思ふらめ也
おまちぬるわか
よれねあめも
君のよくしゝまし難り

應しをかきやすき紙
ふかくはやれ也
はすつ母はとしと
あゝるみゝりゝあり

くれこし　いつれ
うちけせあるのや
さしき売かすれ
年のち海めらく

やりくむかしうあ
あはれさこまれをすへ
なひとしいしは王故を
れうものともてみし

なまえは續きて出すなり

これ（のあしく）かよ（みあしく）ふうへ（のあしく）れ

はるのこゝろつれちれ

あしたのこえれ、こまれ

もみのちるか　いつれの

みけ井のうへのこゝの

志ら露のつゆの

大かためはゆくは續

よきやうに申上可有之

乃ゝ布ゝよ　名乃ま

乃ゝ布（綾）　名の（川）

乃ゝ（急）　名めく（川）

二川なりし　懐恋しくは

なれつゝきと思ひ出のゝ

昆沢急綾くあやまきく

まるせ

一 學爲傳

いろはにほへと

學左傾　學　不足　別　北大學　爲　门

ちりぬるをわか

よたれそつねな

らむうゐのおく

やまけふこえて

わさきゆめみじ
ゑひもせす

右いろはすみにてさい厚薄を一ゝの文
代く御稽古しれはくしく能く左右よく
みるゝは半時は必深浅のわやまりありらく
済しくてんとまや

一字形傳

い（圓）

ろ（宝珠）

は（方）

に（冂）

ほ（冂）

へ（平）

と（小方）

ち 半輪
り 门
ぬ 横
る 宝珠
を 長
わ 横
か 门

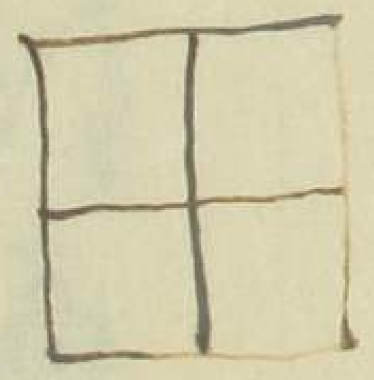
よ 長
た 三角
れ 方
そ 半輪
つ 圓
ね 方
な 長

ら 半輪
む 方
う 半輪
ゐ 宝珠
の 圓
お 方
く 菱麦

や 圓 宝
ま 長
け 方 一方
ふ 三角
こ 長
え 门
て 逆三角

わ 圓
き 口
き 菱
ゆ 横 い
め 圓
み 三角 一分
し 縦

ゑ 三角
ひ 横
も 菱霞
せ 横霞
す 道三角



右いろはの古筆の文字合なり
尊朝親王ハ中道の文字と申一と定格よ
春や
ちりけしく大樹の梅や

右條々傳授為稽畢
貴殿累年執心令感心之
相傳之也

5 年 2 月

申歳
臘月吉日

玄海堂

申歳
臘月吉日

文海堂